

CAMPUS Asia Program

Final Report 2016-2020



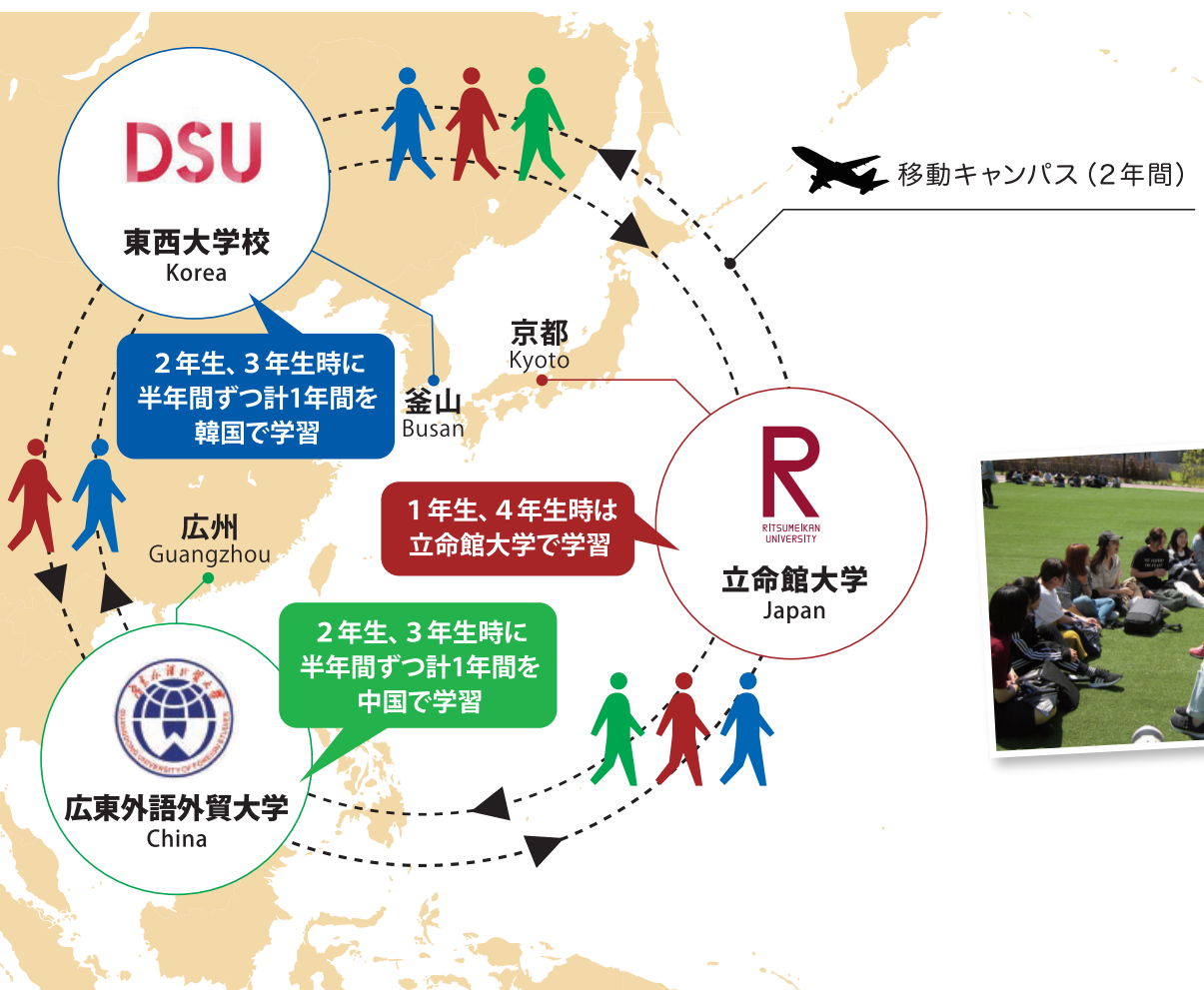
Two Rounds of Studying Abroad Over Two Years

2年間に2週の留学

キャンパスアジア・プログラム(CAP)は、立命館大学(日本/京都)、広東外語外貿大学(中国/広州)、東西大学校(韓国/釜山)の3大学が共同運営する4年一貫の「日中韓3大学共同運営国際教育プログラム」です。2011年度から2015年度に文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として実施したキャンパスアジア・パイロットプログラムを基礎とし、2016年度からは常設化プログラムとして運営してきました。京都・広州・釜山という歴史ある3都市において、各国言語の運用能力、東アジア人文学専門知識、国際協働のためのコミュニケーション能力の3つを兼ね備えた「東アジア人文学リーダー」の育成と、ネットワークの構築がこのプログラムが掲げる目標です。

東アジア人文学リーダーとは、実践的な言語運用能力を基盤として、東アジアの社会・文化・歴史といった人文的知識を身につけ、東アジアに横たわる諸問題の解決に積極的に取り組む意欲と能力を持つ人材をさしています。東アジア各国の文化や歴史を深く知り相手国の人びとと相互理解を試みるには、現地の言語によるコミュニケーション能力が非常に重要です。本プログラムにおいては、日中韓の言語を、現地の人びとと直接コミュニケーションが取れることはもちろん、専門知識を収集・分析できるレベルまで習得することを目標としています。プログラム修了後には「東アジア人文学リーダー」として、日中韓の各言語・文化・社会・歴史などを深く理解し、さまざまな人々がともに暮らしていく社会・環境の形成・推進に力を発揮することを目指します。





各大学で毎年20名のキャンパスアジア・プログラム生を選抜します。CAP生は1年生時に各大学での「派遣前教育」を通じて、派遣先の言語を集中的に学習するとともに、人文学的素養を学びます。

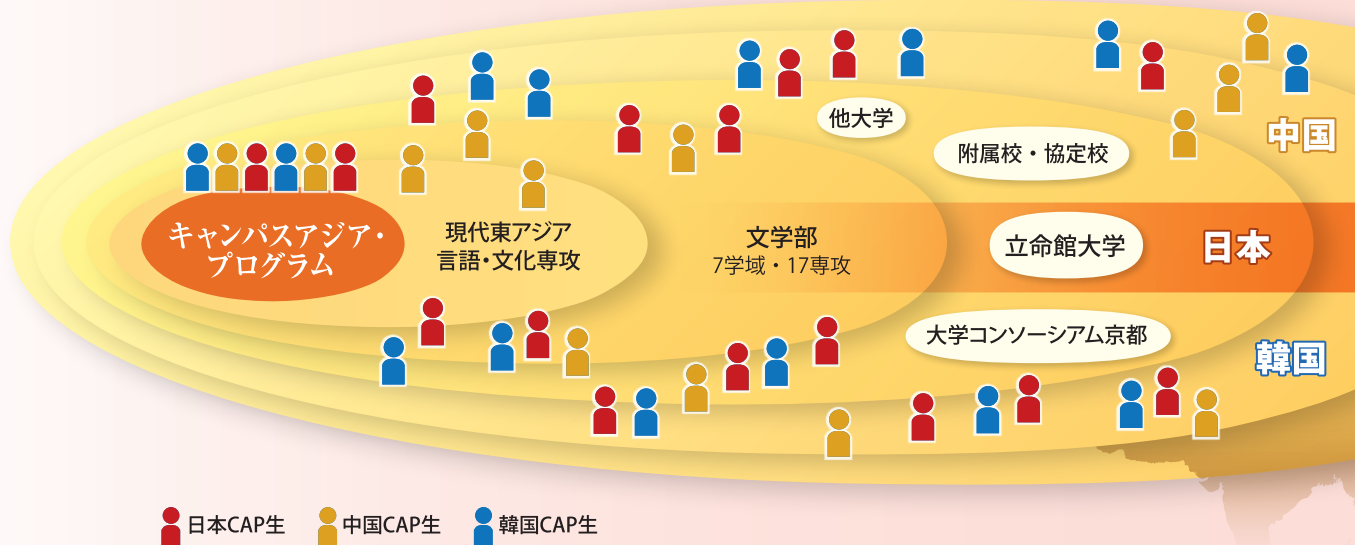
2・3年生時は2年間の「移動キャンパス」に参加し、自国以外の大学へ半年ずつ、2週の留学をおこない、各国の学生とともに学びを深めます。各大学にて日中韓の学生が共同学習を行い、現地の社会や文化、歴史を現地の言葉で学ぶ「移動キャンパス」は、従来にない新しい国際教育プログラムです。また、移動キャンパス時には現地企業でのインターンシップも実施し、海外での就職やグローバル企業に向けた就職活動などを考えるヒントとなっています。



4年生時には自国の大学に戻り、移動キャンパスでの学びや培った経験を活かして、卒業論文を執筆するとともに、語学力の更なる向上を目指します。

なお、コロナ禍においても「現地の学びをとめない」を合い言葉に、種々のオンラインツールを駆使して、語学学習や現地の学びを継続させています。





広 東外貿大学では、会話・精読・作文・文学作品選読の授業で実践的かつ学術的な中国語力を養いながら、中国社会研究、中外文化交流、広東民俗文化などの人文学関連科目を受講して、中国を軸とした東アジア社会に関する知見を深めました。また、CAP文化祭などの各種行事で学年を越えた交流を深めるとともに、南広東古街道オリエンテーリング大会や世界文化祭といったイベントへの積極的参加、幼稚園でのボランティア活動やサークル活動など、プログラムを越えたつながりを広げていきました。

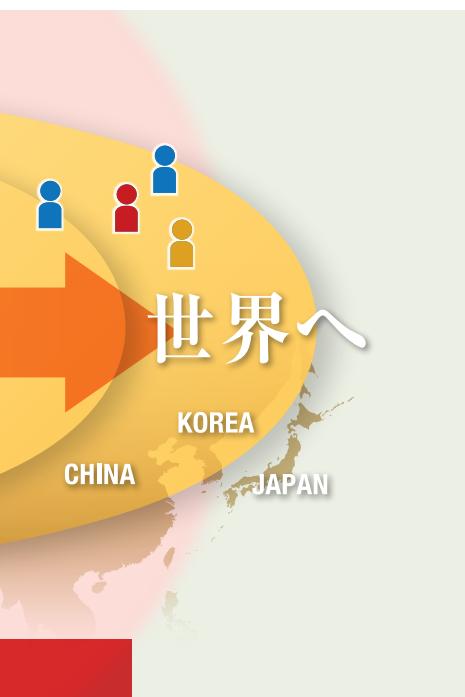


Learning in JOINT CAMPUS

移動キャンパスでの学び

東 西大学校では、会話・講読・文章表現・コミュニケーションなどの授業で培った朝鮮語運用力をもとに、韓国の歴史・文化・文学を学ぶとともに、東アジアでの懸案事項に関するPBL(問題解決学習)にも取り組みました。また、1期生が最終学年となった2019年には、日中韓CAP3・4年生合同の卒論演習も開講されました。そのほか、学期ごとの研修旅行や特別講演会など授業以外の行事も頻繁に行われ、ソウルでの大学生外交キャンプへの参加や三国協力事務局(TCS)訪問など東アジア次世代リーダーの育成に力を入れました。

立 命館大学では、実践的な日本語力に磨きをかける一方、日中韓共修のキャンパスアジア演習では論文講読や研究発表・討論によりアカデミックな思考力を高めました。また、料理大会や研修旅行も学生主体で行われ、CAP生間の輪=和を固めるとともに自主性を培いました。日中韓の学期のズレを利用した留学報告会は日中韓CAP生が一同に会すだけでなく卒業生や高校生も交えて行われ、京都の高校生との交流会実施もあわせて、タテ・ヨコに広がる次世代ネットワークを創っています。



キャンパスアジア・プログラムでは、実践的な語学力を身につけることを目標とし、立命館大学のCAP生には客観的な指標としてHSKやTOPIKでの高級レベル(5級・6級相当)合格を目安としています。2019/20年度卒業の立命館大学CAP修了生は、中国語では100%、朝鮮語では87%の達成度となりました。



Language proficiency

語学の成長



HSK 6級/中検準1級

HSK 5級/中検2級

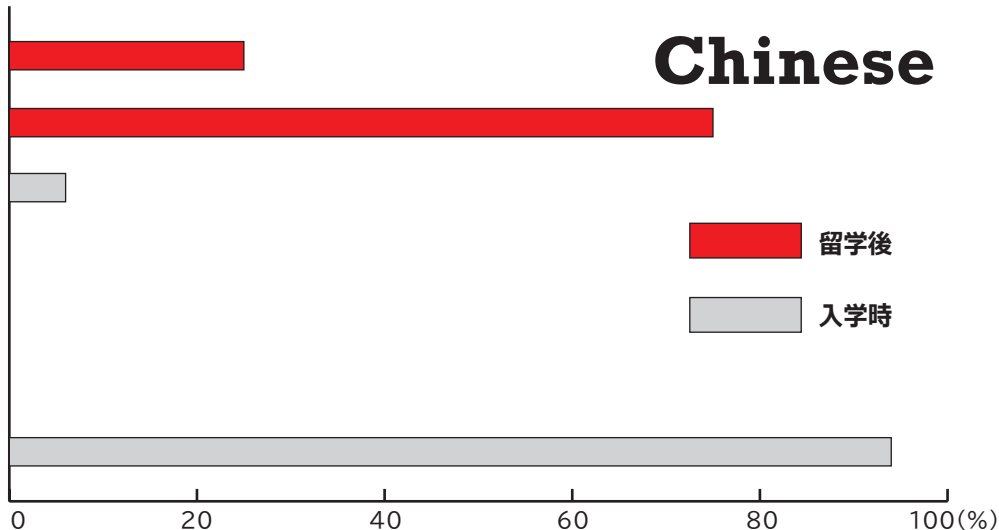
HSK 4級/中検3級

HSK 3級/中検4級

HSK 2級/中検5級

HSK 1級/中検6級

検定級なし



Chinese

TOPIK 6級/ハン検1級

TOPIK 5級/ハン検2級

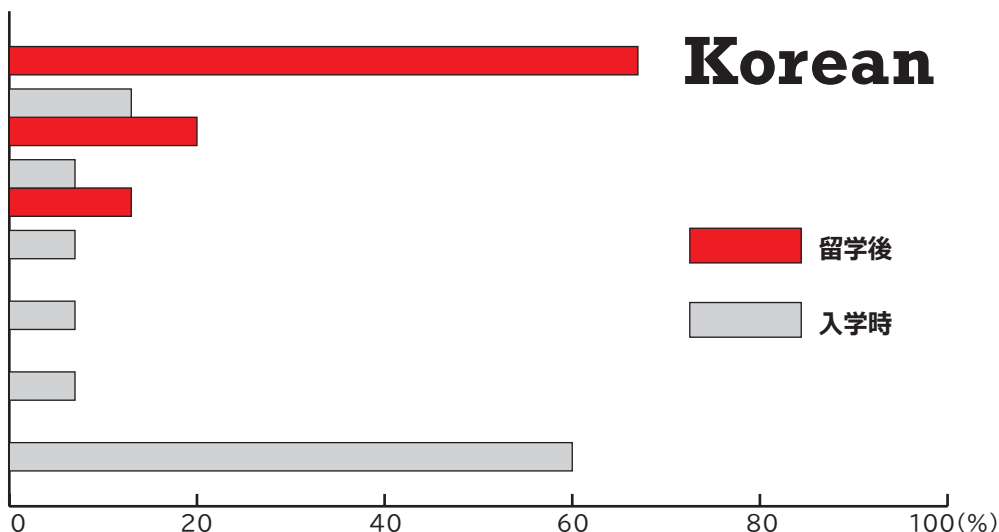
TOPIK 4級/ハン検準2級

TOPIK 3級/ハン検3級

TOPIK 2級/ハン検4級

TOPIK 1級/ハン検5級

検定級なし



Korean

※中検は中国語検定試験を、ハン検はハングル能力検定をあらわす
2019/20年度卒業の立命館大学CAP修了生15名の実績

CAP修了生(立命館大学)の進路としては、航空業や旅行/観光業など、移動キャンパスで身につけた力を発揮できる職種・職場が多くみられました。また、メーカーや人材派遣業、地方自治体を選択した修了生も、移動キャンパスでの経験から、国際的で多様な人びとが活動する業務・環境を志向した進路選択となりました。他にも、朝鮮語の教師や韓国資本の食品産業企業への就職、中国の大学院への進学をめざすなど、高度の国際性を有する進路を選択した修了生もいました。

Career Path after Graduation

修了生の進路

業界	人数
メーカー	4
旅行/観光	3
IT	3
航空関連	2
人材派遣	2
教育	2
食品	2
金融/銀行/証券	2
不動産	1
小売/流通	1
自治体・公共機関	1
大学院進学	1
その他	1

※2019/20年度卒業の立命館大学CAP修了生25人の実績



櫛比晶羽さん(2020卒)

私はキャンパスアジア・プログラムを通して広い視野を持つことができました。どんな意見も聞くことができる力、価値観の違いをきちんと受け止め、一人一人と向

き合う大切さ、自分の意見をはっきり言うための自信を手に入れることができました。いろいろな人と付き合いの中で自分はどのような人間なのかを改めて見つめ直すことができ、自身の未来にも大きくつながる人生の分岐点でした。

田代範子さん(2020卒)

CAPでの留学中は、嬉しいこと、嫌なこと、楽しいこと、大変なこと、本当に盛りだくさんですが、私は楽しかったという感情の方が圧倒しています。さまざまな人と生活してい

く中で、それぞれの考え方を知り、物事を多角的に見る視点も身につきました。留学中は授業内外で積極的に行動していくと、短くて足りないと思うほどに濃密で充実した2年間でした。もう一周させてもらえないかな……。



Alumni Voices

修了生の声

キャンパスアジア・プログラムを通して、多角的に物事を捉えることの大切さを学びました。留学先では、言語だけでなく、国民性や価値観の異なる学生と苦楽をともにしました。初めは多くの「違い」に戸惑い、友人とぶつかったりすることがありました。しかし



「違い」を否定的に捉えるのではなく、相手の立場に立って肯定的に受け入れ、それを理解しようとするからこそ、外国人と友好的な関係を築くことができると学びました。

山本真実さん(2020卒)

CAP生としての一番の成長は臆せず挑む「挑戦心」がついたことだと思います。留学中は自分の能力より大きなことを求められ、困難に思うこともありましたが、日々の努力や周りの助けもあり、乗り越え成長することができました。また、留学2周目には、日本語の先生や現地のボランティア活動などにも積極的に参加し、かけがえのない出会いや経験を得ることができ、留学前には想像もつかなかった経験や友人ができました。



袴田媛香さん(2019卒)

常 設化以降のさらなる教育の質保証の向上に向けて、さまざまな取り組みをおこないました。2017年度より3大学共同の教学システムを協議する組織としてキャンパスアジア教授会を発足させました。年2回開催される教授会には3大学のプログラム担当教員が出席し、3大学共同科目の設置、学生管理にかかわる事項などの議論を重ね、また2019年度以降はプログラム修了要件に照らした修了認定も行っています。立命館大学の教職員は、中国・韓国でのFD研修を毎年行い、中韓の先進的事例の調査・見学、他のCAPコンソーシアムとの意見交換、海外インターンシップ拡充のための情報収集などを行いました。さらに、2カ国2周という類例を見ない留学の成果を客観的に検証するため、国際水準の留学評価システムとして知られるBEVIテストの日本版BEVI-jを試験導入したほか、言語教育・多文化共修・共生言語学の研究者による複数の科学研究費プロジェクトで多面的な検証・評価を受け、プログラムの質的向上を常に図っています。

Quality Assurance in Education

教育の質保証



東西大学校

1970年設立の東西学院を前身とし、数度の改編を経て1996年に現在の東西大学校となりました。特性化、情報化、グローバル化の3大戦略を掲げ、15学部75専攻で約11,000名の学生が学んでいます。地域産業と緊密に連携した映画・映像、IT、デザイン、デジタルコンテンツ分野においては韓国国内で非常に評価が高く、アメリカや中国にもキャンパスを設立するなど、さまざまなグローバル教育を実践しています。また、世界39カ国、230大学と提携し、多彩な国際プログラムを充実させ、イノバイティブな未来型大学の実現に邁進しています。

広東外語外貿大学

1995年に広東外国語協会(1964年設立)と広東外国貿易協会(1980年設立)の合併によって設立された大学で、中国南部の経済的中枢都市である広州市に位置します。4つのキャンパスに文学/経済/管理/法学/工学/理学/教育/芸術の8学部、67の学位コースを擁しており、学部・大学院生あわせて約24,000名が学ぶ、中国南部における最も高水準の大学の一つです。海外の機関との学術・文化交流も盛んで、475の大学・学術機関などと提携し、多くの留学生が学んでいます。



Cooperating Universities

共同運営大学



キャンパスアジア・プログラム最終報告書 2016-2020

2021年3月 発行

編集・発行

立命館大学文学部 キャンパスアジア・プログラム事務局

〒603-8577

京都市北区等持院北町56-1

印刷

山代印刷株式会社

©Ritsumeikan Univ. CAMPUS Asia Program 2021